

三頭山山行報告

【山行日】2017年 11月 19(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー1台 : 3,100円

【メンバー】CL: 鈴木、 岩淵、岡、大西、島田、
関、津佐、鶴見、藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P5:00＝峰谷橋 P7:10/7:30

～麦山の浮橋 7:40～山のふるさと村 8:20/8:30

～鞆口峠 10:10/10:20～三頭山 11:45/12:25～

ヌカザス山 13:30～イヨ山 14:20～麦山の浮橋

15:15～峰谷橋 P15:30/15:40＝都民の森 16:10

＝岩舟支所 P18:50



奥多摩湖のドラム缶橋(麦山の浮橋)を渡りたいとのリクエストがあり、三頭山に北側から登るコースを計画した。結構長いコースなので「山のふるさと村」からスタートを考えたが、奥多摩周遊道が9時までゲートが開かないので峰谷橋スタートとした。峰谷橋駐車場に車を止めトイレとストレッチを済ませ、入会希望の岡さんが参加されたので自己紹介を行ってからスタートする。国道411号を進みすぐに峰谷橋を渡し、トンネルを抜けた左側にドラム缶橋の入口がある。階段を降りて行き、ドラム缶橋で奥多摩湖を渡し対岸に着く。ドラム缶橋からの景色は素晴らしく、紅葉が見頃で皆楽しそうに渡っていた。対岸に着き階段を上がると分岐があり、直進して湖岸を歩く遊歩道を進む。朝日に照ら

された紅葉を楽しみながら歩き、道なりに登ると山のふるさと村に着く。ビジターセンター前のトイレを借り、休憩をして出発する。案内標識が無く分かりにくいので、上に向かって舗装道を進む。

キャンプ場奥のトイレ手前から右に進み、沢を渡渉して左岸の道を進む。あまり歩かれてなく所々道が不明瞭で、慎重に踏み跡を探しながら進む。

途中、奥多摩周遊道を横切り、サイグチ沢沿いに登って行く。傾斜が段々きつくなり、沢の右岸に渡るとさらにきつくなる。沢の源頭部は木で土止めされた九十九折れの急登になり、15分程頑張ると鞆口峠に着く。峠には木製のテラスにベンチがあり、大休止してリンゴや菓子を食べて記念写真を撮る。ここからは明るい自然林の登山道になり、急登になるが気持ちよく歩ける。登山道とブナの道の分岐は、日当たりが良いブナの道を進むと見晴小屋に出る。木製の立派な休憩



舎で東側の展望が開け、御前山や大岳山の展望が得られる。

ミカンや菓子を食べエネルギーを補給し、展望を楽しんだら出発する。明るいブナの尾根を登って行き、この辺から富士山が見えるはずだが雲が多く富士山は見えない。展望台がある東峰の分岐



は、時間が遅れているので東峰に寄らず直進する。すぐに御堂峠に出て、ひと登りで展望の良い西峰山頂に着く。山頂からは富士山の眺望が得られるが、今日は雲が多く富士山を拝むことは叶わなかった。大勢の登山者で賑わっており、ベンチはすでに先客で占められている。仕方が無く、岩場に陣取りランチタイムとする。チタケうどんを作り、各自持参したおにぎりやパンと一緒にいただく。ランチがすんだら、山頂標識の前で記念写真を撮り下山する。下山は御堂峠まで戻り、北側の奥多摩湖に向かって下って行く。下り始めてすぐの細いトラバース道で、O嬢の足が攣り急降下の下山は無理と判断し、S田さんと反対側の都民の森に下山させる。残りの8名は予定通りヌカザス尾根を下り、奥多摩湖を目指して下って行く。ブナやミズナラの気持が良い尾根で、大勢の登山者が登って来る。最初のころは緩やかな下りだが、途中から急坂を下るようになりペースが遅くなる。

落ち葉で滑らないよう慎重に下るが、登り返しも多く疲れた足にはかなりきつかった。糠指山からの下りはさらに急降下になり、ペースはさらに遅くなる。ここからも登って来る人が多く、山頂に着くのは4時過ぎだろうと、他人事ながら心配になる。イヨ山で最後の休憩を取り、リンゴや菓子を食べエネルギーを補給する。



ここからも急坂を下り、奥多摩湖が見えるようになると樹林帯の下りとなり、傾斜が緩くなると奥多摩周遊道に出る。奥多摩周遊道を右に進み、10分ほど歩くとドラム缶橋への入口がある。階段を降りて行くと大勢の観光客で賑わっており、順番を待ってドラム缶橋を渡る。

対岸に渡り往路を戻って峰谷橋駐車場に着く。靴を履き替えトイレを済ませザックを積んだら、奥多摩周遊道を通って都民の森へ2人を迎えに行く。都民の森駐車場で無事2人を乗せ、数馬から五日市町経由であきるのICから圏央道に乗り岩舟支所に向かう。

圏央道は渋滞も無く順調に走り、予定通り岩舟支所に帰着した。

I 瀏さんも念願のドラム缶橋を往復で渡ることが出来、大満足の山行が出来たことと思う。